

2014 年度（平成 26 年度）事業報告

（2014（平成 26）年 4 月 1 日から 2015（平成 27）年 3 月 31 日まで）

1 公益目的事業の状況

「公 1 より良い社会の形成を推進するため、資金等の資源を募り管理活用し、また社会的活動を行う団体に対して助成、顕彰等を行うほか、社会貢献活動についての調査、研究、情報発信、相談・助言等を行う事業」にかかわる個別事業の本年度事業結果を以下に報告する。

（1）資金等の資源を募り、管理・活用する事業

広く個人や企業等からの寄附を社会的活動につなげていくもので、当財団の中心的な事業である。受け入れた寄附金を助成金として活用する側面を含めて、本項に記載する。

2014 年度に当財団が受け入れた寄附金は合計 363,885,432 円であった。当財団の呼びかけに賛同しご支援くださった、個人・企業の寄附者の皆様に深く感謝する。

1) オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」登録団体への寄附の募集

オンライン寄附サイト「Give One（ギブワン）」を運営し、不特定多数の市民、特に初めて寄附を行う人や仕事が忙しく社会貢献活動の機会のない人などを対象に、当財団による厳正な事前審査を経た、信頼できる団体の活動情報を提供し、寄附を募った。助成先団体情報の更新、団体活動レポートの送信などを通じ、寄附者が助成先事業を共に支えていることが実感できる仕組みを提供している。本年度は特にフェイスブックやブログでの情報発信の頻度を上げることに努めた。

登録団体の事前審査を行う、Give One（ギブワン）審査委員会を下記のように行い、8 団体を新規登録した。また、登録団体である特定非営利活動法人神奈川子ども未来ファンダが Give One 登録団体規約に違反があったため（登録停止条件の「②不祥事があった場合」に該当）、登録を停止した。その結果、2014 年度末の登録状況は、157 団体の 239 プロジェクトとなった。

公募	2014 年 6 月 26 日（木）～7 月 21 日（月）
応募	13 件
審査会	2014 年 8 月 6 日
選考委員	伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス日本幹事） 江橋崇（法政大学法学部教授、平和フォーラム代表） 木山啓子（特定非営利活動法人ジェン（JEN）理事・事務局長） 西田治子（一般社団法人 IMPACT Foundation Japan 理事・事務局長） 播磨靖夫（財団法人たんぼぼの家理事長） 堀久美子（UBS 証券株式会社コミュニティーアフェアーズ&ダイバーシティ エグゼクティブディレクター）

審査結果	以下の 8 団体を採択。 特定非営利活動法人 いわき放射能市民測定室「たらちね」 特定非営利活動法人 ムラのミライ 特定非営利活動法人 ふよう土 2100 公益財団法人 知床自然大学院大学設立財団 特定非営利活動法人 フードバンク山梨 特定非営利活動法人 キッズドア 特定非営利活動法人 ETIC. (エティック) 特定非営利活動法人 響愛学園
------	--

2013 年度のオンライン寄附金額（クレジットカードとジャパンネット銀行を通じた決済金額）は合計 20,692,942 円で、前年度比 10%減となった。

寄附金額の 16.7%にあたる 3,458,873 円が、東日本大震災の被災地支援にかかわるプロジェクトに寄附された。これは、昨年度の 5,295,892 円と比べて 1,837,019 円減である。またオンライン寄附のキャンペーン期間中（E-ファンドレイジング・チャレンジ、2014 年 10 月 1 日～10 月 31 日実施）の寄附が 3,895,743 円と、全体の 18.8%を占めた。昨年度の 3,788,032 円と比べて 107,711 円増であった。

寄附金の 85%、17,589,001 円について、登録団体のうち 132 団体、232 プロジェクトに対する助成金にあて、15%を同サイトの運営費用とした。助成の団体別内訳実績は下記の通りである。

助成先団体名	受入寄附金額	助成金額
パブリックリソース財団「Give One 寄附パッケージ」 窓口 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイチ大地震による被災者緊急支援 ・東北関東大震災 被災者緊急支援（専用ページ） ・災害弱者（障害者・アレルギー患者・外国人）寄附パッケージ ・【東日本大震災】生活再建支援寄附パッケージ ・【東日本大震災】復興ふくしま支援寄附パッケージ ・【震災特別寄附パッケージ】被災地 3 県の 8 団体応援プロジェクト ・中国四川省地震 緊急支援 ・【寄附パッケージ】フィリピン台風 30 号 被災者緊急支援 	¥1,797,000	¥1,527,450
フードバンク山梨	¥842,731	¥716,321
子どもセンター「パオ」	¥681,908	¥579,622
パレスチナ子どものキャンペーン	¥679,104	¥577,238

CAPセンター・JAPAN	¥615,062	¥522,803
子どもシェルターモモ	¥586,354	¥498,401
アムダ (AMD A)	¥585,197	¥497,417
ブリッジフォースマイル	¥555,000	¥471,750
全国女性シェルターネット	¥502,958	¥427,514
キッズドア	¥455,616	¥387,274
SOS子どもの村 JAPAN	¥454,754	¥386,541
新宿連絡会	¥420,165	¥357,140
日本地雷処理を支援する会 (JMAS)	¥406,631	¥345,636
環境文化NGO・ナマケモノ倶楽部	¥387,616	¥329,474
日本国際民間協力会 (NICCO)	¥372,908	¥316,972
日本芸能実演家団体協議会	¥369,500	¥314,075
白神山地を守る会	¥367,792	¥312,623
石西礁湖サンゴ礁基金	¥349,700	¥297,245
ジャパン・プラットフォーム	¥340,056	¥289,048
フードバンク関西	¥335,085	¥284,822
長野サマライズ・センター	¥333,731	¥283,671
国際環境 NGO FoE Japan	¥305,777	¥259,910
ピース ウィンズ・ジャパン	¥292,842	¥248,916
ビッグイシュー基金	¥286,047	¥243,140
自立支援センターふるさとの会	¥276,000	¥234,600
民際センター	¥260,677	¥221,575
さなぎ達	¥248,780	¥211,463
エイブル・アート・ジャパン	¥245,354	¥208,551
日本 IDDM ネットワーク	¥231,177	¥196,500
ムラのミライ	¥229,000	¥194,650
パブリックリソース財団	¥226,500	¥192,525
グッドネーバーズ・ジャパン	¥212,200	¥180,370
アレルギー支援ネットワーク	¥207,000	¥175,950
地球の友と歩む会 (LIFE)	¥199,108	¥169,242
ぱれっと	¥199,000	¥169,150
女性と子ども支援センター ウィメンズネット・こうべ	¥186,730	¥158,721
ハンガー・フリー・ワールド	¥170,230	¥144,696
ビーンズふくしま	¥168,377	¥143,120
緑の地球ネットワーク	¥163,000	¥138,550
JUON(樹恩) NETWORK	¥157,000	¥133,450
越谷らるご	¥153,467	¥130,447

ふよう土2100	¥153,085	¥130,122
ジェン (JEN)	¥149,263	¥126,874
めぐはうす 地域生活支援センターMOT A	¥146,000	¥124,100
こどもコミュニティケア	¥144,762	¥123,048
遠野まごころネット	¥143,700	¥122,145
アイキャン	¥143,137	¥121,666
チャンス・フォー・チルドレン	¥142,000	¥120,700
神奈川子ども未来ファンド	¥139,000	¥118,150
カパティラン	¥129,177	¥109,800
いわき放射能市民測定室 「たらちね」	¥120,000	¥102,000
エバーラスティング・ネイチャー	¥118,000	¥100,300
シャプラニール	¥116,417	¥98,954
トゥギャザー	¥113,885	¥96,802
あおもり NPO サポートセンター	¥108,000	¥91,800
国際ビフレンダーズ 東京自殺防止センター	¥106,368	¥90,413
難民支援協会	¥104,354	¥88,701
アジア・アフリカと共に歩む会	¥100,000	¥85,000
響愛学園	¥100,000	¥85,000
DPI 日本会議	¥93,531	¥79,501
難民を助ける会	¥93,262	¥79,273
WE 21 ジャパン	¥85,000	¥72,250
日本クリニクラウン協会	¥84,500	¥71,825
子どもの虐待防止ネットワーク・あいち (CAPNA)	¥82,354	¥70,001
こころ塾	¥80,231	¥68,196
アトピッ子地球の子ネットワーク	¥79,000	¥67,150
フローレンス	¥70,350	¥59,798
チャイルド・リソース・センター	¥69,500	¥59,075
知床自然大学院大学設立財団	¥68,000	¥57,800
霧多布湿原ナショナルトラスト	¥66,000	¥56,100
ACE	¥63,866	¥54,286
ブリッジ エーシア ジャパン	¥63,239	¥53,753
ケア・インターナショナル ジャパン	¥58,031	¥49,326
高木仁三郎市民科学基金	¥58,000	¥49,300
21 世紀協会	¥57,093	¥48,529
箕面こどもの森学園	¥57,000	¥48,450
グリーンケア&ピアサポート 福島れんげの会	¥53,000	¥45,050
日本クマネットワーク (JBN)	¥53,000	¥45,050

日本点字図書館	¥53,000	¥45,050
日本国際ボランティアセンター (JVC)	¥52,830	¥44,906
まちぼっと	¥52,000	¥44,200
多言語社会リソースかながわ	¥52,000	¥44,200
児童虐待防止協会	¥51,000	¥43,350
芸術家と子どもたち	¥49,000	¥41,650
子どもの虐待防止センター	¥48,177	¥40,950
女性の安全と健康のための支援教育センター	¥47,500	¥40,375
Hands On Tokyo	¥46,000	¥39,100
東京シューレ	¥46,000	¥39,100
ゆるら	¥44,000	¥37,400
JHP・学校をつくる会	¥43,000	¥36,550
のんびりすみちゃんの家	¥36,000	¥30,600
タンザニア・ポレポレクラブ	¥35,927	¥30,538
日本グッド・トイ委員会	¥35,000	¥29,750
病気の子ども支援ネット 遊びのボランティア	¥31,000	¥26,350
サポートハウスじよむ	¥30,177	¥25,650
働く女性の全国センター(ACW2)	¥29,000	¥24,650
きょうとグリーンファンド	¥28,000	¥23,800
リソースセンターone	¥25,177	¥21,400
楠の木学園	¥24,354	¥20,701
樹木・環境ネットワーク協会	¥24,000	¥20,400
東京 YMCA “liby (リビー)”	¥22,000	¥18,700
公益財団法人公害地域再生センター	¥20,000	¥17,000
「みのお山麓保全ファンド」	¥20,000	¥17,000
東京 YMCA	¥20,000	¥17,000
C O D E 海外災害援助市民センター	¥19,000	¥16,150
チャイルド・ファンド・ジャパン	¥18,000	¥15,300
野生生物保全論研究会	¥16,000	¥13,600
サイエンス・アクセシビリティ・ネット	¥15,300	¥13,005
しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西	¥14,000	¥11,900
エッジ	¥13,500	¥11,475
バイリンガル・バイカルチュラルろう教育センター	¥13,000	¥11,050
みやぎ身体障害者サポートクラブ	¥13,000	¥11,050
リヴォルヴ学校教育研究所	¥12,177	¥10,350
伊万里はちがめプラン	¥12,000	¥10,200
ETIC. (エティック)	¥11,000	¥9,350

いわきアクション!ママの会	¥10,000	¥8,500
おかやま犯罪被害者サポート・ファミリーズ	¥10,000	¥8,500
ワールドキッズコミュニティ	¥10,000	¥8,500
創る村	¥10,000	¥8,500
尾道空き家再生プロジェクト	¥9,000	¥7,650
グリーンアライアンス	¥8,000	¥6,800
インド福祉村協会	¥7,230	¥6,146
国際医療技術財団	¥6,354	¥5,401
ネットワークオレンジ	¥6,000	¥5,100
e-MADO 病気のこどもの総合ケアネット	¥5,000	¥4,250
サンクチュアリ エヌピーオー	¥5,000	¥4,250
気候ネットワーク	¥5,000	¥4,250
トラ・ゾウ保護基金	¥3,000	¥2,550
地雷廃絶日本キャンペーン	¥3,000	¥2,550
キープ協会	¥1,000	¥850
トージバ	¥1,000	¥850
日本フィランソロピー協会	¥1,000	¥850
緑と水の連絡会議	¥1,000	¥850
合計	¥20,692,942	¥17,589,001

クレジットカードとジャパンネット銀行以外の決済手段による、Give One 登録団体に対する寄附は、法人 2 件、合計 54,884,156 円だった。以下の助成先に合計 50,378,156 円を助成した。

助成先団体名	受入寄附金額	助成額
特定非営利活動法人 ETIC. (エティック)	¥54,854,156	¥50,354,156
特定非営利活動法人 JUON(樹恩) NETWORK	¥30,000	¥24,000
合計	¥54,884,156	¥50,378,156

2) 財団運営への寄附

当財団の運営資金への特別寄附金（運営費 100%）は 1 件 5,000 円、賛助会費（運営費 100%）は、個人 32 件、370,000 円、法人 3 件、300,000 円だった。

3) 社員参加型／顧客参加型寄附推進システムの提供・運営

寄附金付き年賀状の企画は株式会社プリプレス・センターと協働して、2014 年版年賀状（当財団 2013 年度）から実施している。年賀状に支援先を明記するために、年賀状の販売開始に先立ち、昨年度、助成先に関する選考委員会を開催し本年賀状のデザインで採用さ

れる障がい者アートの活動（一般財団法人たんぽぽの家 エイブルアート・カンパニー）を助成先として決定した。2014年度は、2014年版年賀状販売による寄附金をもとに、52,326円の助成を実施した。

助成額	52,326 円（2013 年度寄附分で、2014 年度助成実施額）
公募	公募実施せず（昨年度より継続助成）
審査	2014 年 7 月 11 日～17 日（書面による持回り開催）
選考委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 槇ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	一般財団法人たんぽぽの家 エイブルアート・カンパニー
助成期間	2015 年 4 月～2016 年 3 月

4) 寄附基金の運営による継続的な寄附の推進

今期は基金管理の業務支援データベースの開発と、管理体制の構築に取り組むとともに、下記の基金を運営した。

<東日本大震災広域避難者支援基金>

「東日本大震災広域避難者支援基金」は、福島からの広域避難者の生活の質の向上を目指すものである。特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げの一部として 962,268 円の寄附を受け入れ、総額の 85%を助成金として支出した。自動販売機に支援先が明記されているため、昨年度選考委員会で決定された支援先に対し、継続して助成することを原則としている。継続的支援先については、昨年度活動報告と本年度事業計画を選考委員会に提出し、継続の可否について審査をおこなった。また新潟県の東日本大震災ボランティアバックアップセンターについては、昨年度事業が終了したため、改めて新潟県の中間支援団体より推薦されてきた 1 団体（福島県自主避難・母子非難新潟市自治連絡協議会）について選考委員による審査を行い、助成を決定した。

受入寄附金額	1,219,478 円
助成額	901,360 円（3 団体合計）
公募	公募実施せず（昨年度より継続助成）
審査結果	以下 3 団体を決定。 特定非営利活動法人こどもプロジェクト（東京） 福島県自主避難・母子非難新潟市自治連絡協議会（新潟） 認定 NPO 法人 IVY（山形）
助成期間	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

<東日本大震災復興支援基金>

同基金には、特定非営利活動法人ジャパン・カインドネス協会の管理する寄附金つき飲料自動販売機の売り上げの一部として 1,901,894 円の寄附を受け入れ、総額の 85%を助成金として支出した。

自動販売機に支援先が明記されているため、昨年度選考委員会で決定された支援先に対し、継続して助成することを原則としている。継続的支援先については、昨年度活動報告と本年度事業計画を選考委員会に提出し、継続の可否について審査をおこなった。

受入寄附金額	2,300,050 円
助成額	1,700,042 円 (3 団体合計)
公募	公募実施せず (昨年度より継続助成)
審査	2014 年 8 月 5 日～6 日 (書面による持回り開催)
選考委員	秋葉武 (立命館大学産業社会学部 教授) 伊藤隆 (世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事) 榎ひさ恵 (特定非営利活動法人ニンジン 常務理事)
審査結果	以下 3 団体を決定。 財団法人たんぼぼの家 東日本大震災復興支援事業 特定非営利活動法人ビーンズふくしま 特定非営利活動法人遠野まごころネット
助成期間	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

<未来につなぐふるさと基金>

本事業は特定非営利活動法人パブリックリソースセンター (弊財団の前身団体) がキャノンマーケティングジャパン株式会社と協働して開始した事業である。

キャノンマーケティングジャパン株式会社が使用済みカートリッジの回収本数と PPC 用紙 (コピー紙) の販売数に応じ、同社が実施する寄附を初めとし、古本の回収等による一般からの寄附も受け付けている。同基金への 2014 年度寄附受け入れ総額は 11,870,911 円で、助成額は 9,495,437 円だった。

本年度の助成先の選定にあたって、過去にパブリックリソースセンターが公募し審査して選定した 13 団体 14 事業について、改めて審査会による審査を行い、そのうちの 13 団体 13 事業について継続助成先として採用した。

同助成先に対しては、キャノンマーケティングジャパン株式会社グループの社員参加によるボランティアの派遣 (年間累計 35 回) も併せて実施し、「ふるさとづくり」に貢献した。

また、2016 年度から新たにスタートする「未来につなぐふるさと基金」の第 2 ステージの企画を検討するために、キャノンマーケティングジャパン株式会社と弊財団で、情報収集やディスカッションを重ねた。

受入寄附金額	11,870,911 円
助成額	9,495,437 円（13 団体合計）
公募	公募実施せず（昨年度より継続助成）
審査	2014 年 4 月 21 日～25 日（書面による持回り開催）
選考委員	秋葉武（立命館大学産業社会学部 教授） 伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス 日本幹事） 槇ひさ恵（特定非営利活動法人ニンジン 常務理事）
審査結果	以下の 13 団体（13 事業）を決定 北海道 NPO 法人霧多布湿原ナショナルトラスト 青森県 NPO 法人白神山地を守る会 茨城県 NPO 法人アサザ基金 栃木県 NPO 法人くまの木里の暮らし 新潟県 NPO 法人共存の森ネットワーク 山梨県 一般社団法人風土人 静岡県 NPO 法人グラウンドワーク三島 三重県 野原村元気づくり協議会 大阪府 NPO 法人里山倶楽部 広島県 西条・山と水の環境機構 香川県 NPO 法人どんぐりネットワーク 福岡県 和白干潟を守る会 沖縄県 美ぎ島宮古グリーンネット
助成期間	2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日

<教育基金>

教育の課題解決に取り組む NPO や社会的企業を応援するために、教育基金を設置した。全ての子ども・青少年が持てる力を十全に発揮し、人生を切り拓く力を身につけることをめざすものである。昨年度選考委員会で決定した助成先 NPO 法人 Teach For Japan のネクストティーチャープログラム（次世代のリーダーとなる資質をもった人材を選抜・育成し、正規の教員として学校現場へおくりだすプログラム）に対し、継続的に助成をしている。

寄附募集の結果、今年度は 8 件 3,140,170 円のご寄附を受け入れ、2,826,145 円を助成した。

受入寄附金額	3,140,170 円
助成額	2,826,145 円
公募	公募実施せず（昨年度より継続助成）
審査	2013 年 7 月 5 日～17 日（昨年度、書面による持回り開催）
選考委員	伊藤隆（世界文化フォーラムアライアンス日本幹事）

	江橋崇（法政大学法学部教授、平和フォーラム代表） 木山啓子（特定非営利活動法人ジェン（JEN）理事・事務局長） 西田治子（一般社団法人 IMPACT Foundation Japan 理事・事務局長） 播磨靖夫（財団法人たんぼぼの家理事長、日本ボランティア学会副代表） 堀久美子（UBS 証券株式会社コミュニティーアフェアーズ&ダイバー シティ エグゼクティブディレクター）
審査結果	特定非営利活動法人 Teach For Japan
助成期間	2015年4月～2016年3月

<アート&ヘルス基金>

「アート&ヘルス基金」は、アートの力で病院や福祉施設、学校、コミュニティケアの場を豊かな空間とすることを旨とするもので、人間が生きることを助けるアート活動を支える寄附の仕組みである。35件、2,004,774円の寄附を受け入れた。助成先の決定にあたっては、下記の公募、選考委員会を経て、2件に対し総額1,500,000円の助成を行った。なお「うさぎさんのおうち壁面アートプロジェクト」の審査にあたっては、鈴木委員、江口委員は関係者に該当したので、審査に加わっていない。

受入寄附金額	2,004,774円
助成額	1,500,000円（2団体合計）
公募期間	2014年6月25日～7月4日
応募件数	2団体
審査会開催日	2014年7月7日
選考委員	江口八千代 認定NPO法人ファミリーハウス代表理事 鈴木理恵子 女子美術大学アート・デザイン表現学科 ヒーリング表現領域准教授 中村陽一 立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科教授 並河恵美子 NPO法人 芸術資源開発機構理事長 槇ひさ恵 特定非営利活動法人ニンジン常務理事 森口ゆたか 特定非営利活動法人アーツプロジェクト理事長
審査結果	2団体を決定。 <東日本大震災被災地におけるアートを通じたコミュニティの復興を応援>領域 応募者：特定非営利活動法人エイブルアートジャパン プロジェクト名：南三陸・のぞみの森プロジェクト 対象施設：社会福祉法人洗心会 のぞみ福祉作業所

	<病や障がい、老いと向き合って生きていく人を支えるケアとしてのアート>領域 応募者：鈴木理恵子 プロジェクト名：うさぎさんのおうち壁面アートプロジェクト 対象施設：特定 NPO 法人ファミリーハウス うさぎさんのおうち
助成期間	2014年8月1日～2015年3月31日

なお本年度弊財団としては初めて、寄付者が命名するオリジナル基金の設立を行うことができた。設立されたオリジナル基金（「井上圭子メモリアル基金」）はアート&ヘルス基金の中に繰り入れられ、本年度のアート&ヘルス基金の助成金として活用された。「井上圭子メモリアル基金」は寄付者の親族（故人）の人生を記念するために創設されたものである。弊財団ではその趣旨に鑑み、故人のライフヒストリーと寄付の志を記述した小冊子を作成し、寄付者に贈呈するとともに、広く公開している。

< A E D ・地域あんしん基金 >

キャノンマーケティングジャパン株式会社と共同で「A E D ・地域あんしん基金」を設立した。本基金はご寄附をもとに、多くの市民が利用する公共施設や福祉施設に A E D を寄贈し、災害時などに避難所となることが想定される施設などに設置することを目的としている。運営管理はパブリックリソース財団が行い、キャノンマーケティングジャパン株式会社は募金活動の協力および A E D の設置、講習インストラクターの派遣を行った。本年度は、4 件合計 2,100,000 円の寄附を受け入れた。常時受け付けている設置希望団体の中から、寄附者の希望をいれ、埼玉県と宮城県の団体の 7 団体のうちから、選考委員会の選考をへて、2014 年度は下記の 3 か所へ A E D の寄贈を行った。残り 1 件の寄附については、寄贈を 2015 年度に持ち越した。

受入寄附金額	2,100,000 円（4 台分）
寄贈台数	3 台
公募	財団ホームページ上で随時受け付け
応募件数	7 団体
審査会開催日	2014 年 9 月 17 日
選考委員	浅野幸子（早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員） 市瀬敬子（NPO 法人世田谷福祉住環境コーディネーター研究会 理事長） 西尾元雄（キャノンマーケティングジャパン株式会社総務・CSR 本部主席） 山崎富一（特定非営利活動法人笑顔せたがや 理事・事務局長）
A E D 寄贈先 選定結果	3 団体を決定。 NPO 法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク

	一般社団法人東松島みらいとし機構 (hope)の運営するディスカバリーセンター 東北大学の運営する災害科学国際研究所
--	---

<azbil みつばち倶楽部基金>

アズビル株式会社（以下アズビル）およびアズビルみつばち倶楽部（社員有志参加型の社会貢献プログラム）と共同で「azbil みつばち倶楽部基金」を設立した。本基金はアズビルみつばち倶楽部会員が毎月 100 円を拠出して集めたご寄附をもとに、会員が推薦する市民活動団体に対して支援（助成）することを目的としている。本年度は、アズビルみつばち倶楽部から 2,785,000 円、アズビル株式会社からのマッチング寄附として 1,785,000 円、合計 4,570,000 円の寄附を受け入れ、選考委員会の選考をへて、全額を下記の 30 団体へ助成を行った。

受入寄附金額	4,570,000 円
助成額	4,570,000 円
公募	2014 年 4 月 14 日～5 月 23 日（会員推薦による）
応募件数	30 団体
審査会開催日	2014 年 10 月 6 日
選考委員	坂本 文武（立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 特任准教授） 復本 環（アズビル株式会社 総務部 CSR 推進グループ） 岸本 幸子（弊財団 代表理事・専務理事）
選定結果	30 団体を決定。 日本アンパティサッカー協会 かながわ「福島応援」プロジェクト 横浜市中途障害者地域活動センター：NPO 法人チャレンジ新生 なごや防災ボランティアネットワークなか むさしの紙芝居一座 クッキングハウス会 サーフ 90 茅ヶ崎ライフセービングクラブ メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン ピープルズ・ホープ・ジャパン ふれあい囲碁ネットワーク神奈川 子ども大学かまくら 藤沢グリーンスタッフの会 鎌倉考古学研究所 横浜ドリーマー BAY FC 鎌倉野球協会学童部 日本盲導犬協会

	子どもと遊びを育むまちづくりプロジェクト Kid's ぼけっと 柏プラネタリウム研究会 朗読奉仕グループ「Qの会」 テクノシップ ぶどうのいえ アトリエふる～むんクリニカルアートクラブ 日本聴導犬協会 国際セラピードッグ協会 地域作業所 「ピープルファクトリー」 一般社団法人 武道振興會 倭式騎馬會 聖坂豊かな福祉をつくる会 遠野まごころネット みちのく未来基金 メータオ・クリニック支援の会
--	--

<ふくしま未来基金>

福島県内の篤志家及び地域貢献を目指す企業からの寄附（13件、総額 258,000,000円）を受け入れ、複数年に渡って助成する地域基金として「ふくしま未来基金」を創設した。

本年度は、「福島が将来にわたり誰もが生き活きと生きていける地域となることに貢献する NPO や社会企業を支援してほしい」という寄附者の要望に応える助成制度の設計に取り組み、助成金支出は発生していない。

一般社団法人ふくしま連携復興センター、一般社団法人 Bridge for Fukushima など、複数の福島市内の中間支援組織や専門家と連携し、「未来づくり助成」「まちづくり草の根助成」の二つの助成プログラムを運営することを決定した。それぞれの助成制度のおよそ二分の一を福島市内の活動に、残りの二分の一は福島市以外の県内での活動に投入する予定である。

2月15日から4月15日を公募期間として、下記の要領で支援先団体の応募を受け付けた。また、同基金への応募を考える人を対象とした説明会を、2月26日（木）に福島市内の福島テルサで開催した。

■「ふくしま未来基金」の概要

助成名	助成金	助成対象
未来づくり助成	1件 350万円以内を原則とする うち 50万円はマネジメント支援の費用とする。 原則として継続助成(最長3年) 本年度採択件数 5件程度	将来にわたり活動を継続し、福島を支える中核団体となる可能性のある団体を対象とする。法人格の「種類」を問わない。

まちづく り草の根 助成	1件100万円以内を原則とする 原則として、単年度助成 本年度採択件数8件程度	市民が自発的に活動する民間非営利団体。 法人格の「有無」を問わない。草の根の団 体やボランティア団体も対象とする。
--------------------	---	---

(2) 社会貢献活動についての情報提供、相談事業

社会貢献活動を促進したいと考える企業を対象に、以下の情報提供や成果評価を行った。

<損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部「Heart&Arts プログラム」>

損害保険ジャパン日本興亜株式会社と業務委託契約を結び、損害保険ジャパン日本興亜株式会社の全役職員がメンバーであるボランティア組織、「損保ジャパン日本興亜 ちきゅう倶楽部」の助成プログラム「Heart&Arts プログラム」の立ち上げ、および運営支援を行った。同プログラムは、美術活動、音楽活動、舞台芸術活動などのアート（芸術）の力を活用して、社会課題を解決する団体のうち、障害のある人をはじめ、生きにくさを抱えている人たちと共にアート活動を実践する団体の組織基盤強化を支援する助成プログラムである。当財団では、同プログラムの主旨およびガイドラインの設定協力、助成先候補となるNPOの推薦、助成先決定のための助言を行った。

2014年度は助成先として「Heart&Arts プログラム」に対し、7団体を推薦した。

公募期間	2014年12月26日～2015年1月28日
応募件数	14団体
審査方法	事務局で応募用紙を精査
審査結果	7団体を推薦

<アクセント株式会社社員参加推進プログラム>

同社の社会貢献担当部署と協力をして、より多くの社員がボランティアやプロボノ活動・社会貢献活動に興味を持ち積極的に関わるきっかけを提供するプロジェクトを実施した。

No	プログラム名 (実施回数)	社員参加の狙い	社員 参加数	STS 受益者数
1	社会起業大学コンサルセッション（6回）	事業計画立案、プレゼンスキル アップ支援	38人	24人
2	ソーシャルビジネス起業家セッション（1回）	事業推進上の課題解決アドバイス	21人	4人

3	NPO 向けプロジェクトマネジメント研修（4回）	NPO 向けプロジェクトマネジメント研修の資料作成および講師	35人	40人
4	東北復興応援ボランティア（6回）	被災地復興支援のためのボランティア作業、起業家研修、コンサルセッション	49人	9人
計			143人	77人

<CSRレビューフォーラムへの参加>

一般社団法人CSRレビューフォーラムの行う企業のCSRのレビュー（企業とNGOとの対話）に参画した。NEC、大日本印刷、SCSK、グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークなどと、市民セクターの立場からCSRの推進に関する意見交換を行った。

<東日本大震災被災地視察のコーディネート>

クラブツーリズム株式会社と業務委託契約を結び、同社の社会貢献活動の実施支援を行った。本年度は同社の社員や「エコスタッフ」を対象に、東日本大震災被災地視察のコーディネートを行った。同社では本年度現地訪問、講演会、ボランティアなどを合計5回実施した。

（3）寄附を推進するための普及啓発活動等に関する事業

1）個人や企業等からの寄附を喚起するための事業

<事業報告会の実施>

設立記念フォーラムから数えて2回目の寄附フォーラム（寄附者報告会）を下記の要領で開催した。

弊財団の最初の15ヶ月の歩みを寄附者に報告するとともに、テーマ型基金として創設した「アート&ヘルス基金」を題材に、より効果的な基金運営を目指してご意見をいただき、これからのビジョンを参加者の皆様と語りあった。

日時：2014年8月7日（木）19時～21時

会場：アーツ千代田 3331 1階コミュニティスペース

プログラム：

第1部 事業報告

開会あいさつ（久住 剛 弊財団 代表理事）

事業報告（岸本 幸子 同 専務理事・事務局長）

（田口 由紀絵 同 チーフ・プログラムオフィサー）

コメンテーター

堀 久美子（UBS証券株式会社 コミュニティアフェアーズ&ダイバーシティエグゼクティブディレクター）

西尾 元雄（キヤノンマーケティングジャパン株式会社 総務・CSR本部主席）

植田 洋子（認定NPO法人ファミリーハウス 理事・事務局長）

柴崎 由美子（NPO法人エイブル・アート・ジャパン代表理事）

第2部 ディスカッション

コーディネーター： 久住 剛 公益財団法人パブリックリソース財団 代表理事

第一部コメンテーターの方と会場の方、財団スタッフ

2) 寄附を推進する仕組みやプロジェクトの企画及び実施に係る事業

< Eファンドレイジング・チャレンジ (E-チャレンジ) >

Give One (ギブワン) 登録団体を対象に、オンラインでの寄附調達の目標達成を競う「Eファンドレイジング・チャレンジ (E-チャレンジ)」事業を企画し、外部専門家の協力によって実施した。

Give One (ギブワン) 登録団体への参加呼びかけ期間	2014年6月26日～7月21日
応募団体数、実施団体数	25 団体
E-チャレンジ実施日	2014年10月1日～10月31日
オンライン上での受取寄附金額	3,895,743 円

参加団体に対しては、下記の研修会を実施するほか、個別のアドバイス等を行い、参加団体のファンドレイジング力向上に貢献した。

2014年10月1日～10月31日にかけて、NPO等がオンラインで1カ月間集中的に寄附調達の目標達成を競う「E-ファンドレイジング・チャレンジ」をオンライン寄附サイト Give One (ギブワン) 上で実施した。

本年度は Give One (ギブワン) 登録団体のうち 25 団体が参加し、E-チャレンジ期間中の寄附総額は 3,895,743 円に達した。Give One (ギブワン) の運営原資に充てる 15%を控除した 3,311,382 円を参加団体に助成した。

- (4) 社会的活動を行う団体等に対する助成事業
- (5) 社会的活動を行う団体等に対する表彰・顕彰事業

上記(4)及び(5)は、(1)の事業において受け入れた寄附を活用する事業。いずれの事業においても、広く対象を募集し、社会的活動や各種の公益活動分野に関して知見のあ

る有識者で構成された委員会による公平かつ厳正な審査を経て選定を行う。(4)の助成事業については、(1)の事業で記載した。(5)について今期は実施しなかった。

(6) 社会的活動を行う団体等に対する研修事業

NPO法人の経営力・信頼性の向上を支援することを目的に、以下の研修事業を実施した。

1) NPOのマネジメントコンサルティングの実施

<NPO法人市川子ども文化ステーション>

市川子ども文化ステーションが Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に中期計画の策定支援のマネジメントコンサルティングを業務委託した。弊財団では中期計画策定の企画策定を行うと共に、2014年7月～2015年3月にかけて月に1～2回のペースで同団体を訪問し、理事を中心としたメンバーによる情報収集の支援や、ディスカッションのアジェンダ策定とファシリテーション、中期計画のとりまとめ支援等のコンサルティングを行った。

実施期間：2014年7月14日～2015年3月31日

コンサルティングの内容：中期計画の策定支援

<NPO法人フードバンク山梨>

フードバンク山梨が Panasonic NPO サポート ファンドの支援を受け、弊財団に組織診断のコンサルティングを業務委託した。弊財団では、診断シートを活用した内部環境分析を行う共に、同団体を3回訪問しヒアリングを行った。内部環境分析、および外部環境分析の結果をもとに、組織診断結果を報告書にまとめて同団体に提出した。

実施期間：2014年4月1日～2014年6月30日

コンサルティングの内容：組織診断の実施支援

<認定NPO法人みやぎ発達障害サポートネット中期計画策定支援>

宮城県仙台市に拠点を置く認定特定非営利活動法人みやぎ発達障害サポートネットの中期計画策定の支援を行った。

○支援実施状況

10月22日事前指導

10月31日ワークショップ指導(1)

11月5日ワークショップ指導(2)

12月11日ワークショップ指導(3)

2) NPO マネジメントに関する講座の運営および講師派遣

<通信学習講座「NPO 実践マネジメント入門」の実施>

NPO スタッフ、中間支援組織、企業の CSR 担当者など合計 44 名を対象に、通信学習講座「NPO 実践マネジメント入門」を実施した。

■受講生募集締め切り 7 月 24 日

■開講 課題 1 回答期間	8 月 4 日～8 月 28 日
課題 1 返却	9 月 17 日
ミニレポート提出	8 月 29 日～9 月 16 日
課題 2 回答期間	9 月 17 日～10 月 8 日
課題 2・ミニレポート返却	10 月 30 日

■参加人数 44 名 うち修了 40 名 (4 名リタイア)

修了者のうちファンドレイジング協会の資格 38 名希望 (発行)

■地域別受講者数

東北	1 名
関東	14 名
甲信越	3 名
東海	4 名
近畿	7 名
中国	2 名
四国	2 名
九州	8 名
沖縄	3 名
合計	44 名

■現在の所属

NPO 21 名 財団・社団等 6 名 企業・公務員 7 名
大学・大学院 2 名 その他・不明 7 名

<セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの協働>

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン (以下、SCJ) がサントリーホールディングス株式会社と協働で進める「フクシマ ススム プロジェクト 遊び場・居場所づくり」において、SCJ が選定した 6 団体に対して、組織基盤強化を目的とした技術支援協力を行った。技術支援の内容については、前年度に弊財団が 6 団体に対して行った訪問調査の結果に基づき、SCJ と協議の上決定した。技術支援は、担当コンサルタントが 1 ～ 2 ヶ月に 1 度訪問して行うものに加えて、集合研修を 1 回実施した。また報告会を開催し、6 団体が互いに組織基盤強化の取り組み内容や成果を共有することによる学び合いの機会を設けた。さらに 6 団体における組織基盤強化の取り組みを事例集にまとめるために、本年度は原稿作成作業を行った。

実施期間：2014年4月1日～2015年3月31日

内容：

【技術支援】

- ① NPO 法人みんなのひろば：財政の安定化
- ② NPO 法人ココネット・ママ：事業収入の開拓
- ③ NPO 法人子育て支援コミュニティ プチマママン：ファンドレイジング
- ④ NPO 法人ふよう土 2100：認可事業の立ち上げ
- ⑤ NPO 法人ふれあいサポート館アトリエ：情報発信
- ⑥ NPO 法人ビーンズふくしま：中期計画の策定

【集合研修の実施】

実施日：2014年9月27日

場所：コラッセふくしま

参加者：上記6団体およびセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

弊財団は、「NPO と理事会運営」および「チームマネジメントの手法」を担当した。

【報告会の実施】

実施日：2015年2月28日

場所：チェンバおおまち3階

参加者：上記6団体およびセーブ・ザ・チルドレン・ジャパン ほか

<講師派遣>

外部セミナー等への講師派遣、外部への寄稿、原稿執筆、企業のCSR報告書への第三者意見の執筆、ステークホルダーダイアログへの出席を、延べ34回行った。

3) ソーシャルビジネスに関する講座企画、運営、起業支援

2つのNPO法人（自治創造コンソーシアム、ニンジン）の事務局運営支援を行った。

4) 資金調達能力向上のための支援

<オンライン寄附調達研修会の実施>

Give One（ギブワン）への新規登録団体および外部の一般団体を対象に、寄附調達能力の向上を目的としたオンライン寄附調達研修会を実施した。

実施日：8月27日

場所：中央区月島区民館（東京都中央区）

講師：合同会社コース・アクション 菅 文彦氏、認定特定非営利活動法人日本 IDDM ネットワーク 事務局長 岩永幸三 氏、弊財団 田口 由紀絵

参加者数：43名（うち30名がE-チャレンジ参加団体）

<あおもり NPO サポートセンターとの協働>

あおもり NPO サポートセンターが青森県からの委託で実施する「平成 26 年度 NPO 活動基盤強化支援事業（市民の「共感（信頼）」を得る認定 NPO 法人の育成）」において、青森県が選定した 2 法人が、認定 NPO 法人を申請するために必要な準備として、共感獲得のための情報発信支援を行うために、昨年度に引き続き以下の支援を行った。対象となった 2 法人は、集合研修および個別コンサルティングにより、共感獲得のための情報発信、および認定取得の準備を行うことができた。

【集合研修の実施】

場所：あおもり NPO サポートセンター

実施日と内容：

2014 年 7 月 31 日：ファンドレイジング研修の進捗報告とブラッシュアップ

2014 年 12 月 1 日：認定取得のための準備

【コンサルタントの派遣】

期間：2014 年 8 月～2014 年 11 月

（7） 調査研究、情報発信、政策提言に関する事業

<Panasonic NPO サポートファンド 2012 年度事業の成果評価>

パナソニック株式会社が企業市民活動の一環として実施する「Panasonic NPO サポートファンド」に関し、成果評価を行った。

評価対象は、2012 年度組織基盤強化事業の助成対象団体（対象団体：26 団体）である。本事業による資金提供及び非資金的取組みが、助成の受け手における組織基盤の強化、活動の充実による社会課題の解決の促進に与えた影響を検証した。また、組織基盤強化の手法として、組織診断を実施したことによる効果、および第三者によるコンサルティングの効果をはかった。

助成先団体の応募用紙・報告書類の分析、助成先団体へのアンケート調査、および 2 団体へのヒアリング分析結果を行った。アンケート調査の結果からは、組織診断を行った 15 団体のうち 93.3%が、組織診断のプロセス自体が組織基盤の強化につながったことがわかった。また、助成団体すべてが、主要事業のアウトカム・インパクトについて改善・向上がはかられたことが明らかになった。弊財団では、同社に対し報告書を提出するとともに、2015 年 1 月 22 日にパナソニックセンター東京（東京都江東区有明）で実施された「組織基盤強化フォーラム」（主催：パナソニック株式会社）において、評価結果の報告を行った。

以上